

南米の共産党は、ラテンアメリカの現状をどう見ているのか？

4月28日ウルグアイのモンテビデオで南米共産党会議が開催され、参加した10か国9共産党は、ラテンアメリカ・カリブ海地域の現状を討議し、声明を發表しました。

参加した共産党は、下記の10の共産党ですが、いずれもラテンアメリカ・カリブ海諸国の左派政党・組織が参加するサンパウロ・フォーラムの参加国で、それぞれの国で、対米自立的な外交政策、格差・貧困の解消、汚職反対、持続可能な経済発展、地球環境の保全などの問題で闘っています。また、00年代のブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ、チリ、ボリビア、ベネズエラの左派政権の樹立には、ブラジル共産党（PCB）を除き、統一戦線や協力関係を築き、重要な政治的役割を担いました。これらの党は、近年、米国の、反転大攻勢により、左派政権が退潮する中で、過去の失敗を反省しつつ、新たな政権への復帰を模索しています。欠席した党は、エクアドル共産党（PCDE）とエクアドル共産党（PCE）でしたが、招待状が間に合わなかったからだと説明されています（19.04.27 El País Uruguay）。PCDEは、マドゥーロ政権を全面的に支持していますが、PCEは、部分的な批判はしつつも大局において支持しています。両党ともサンパウロ・フォーラムには参加していません。

南米共産党会議に出席の9か国10共産党概要

党名	創立年	党員数	上院議員数	下院議員数
アルゼンチン				
アルゼンチン共産党	1918	22,523	0/72	0/257
ボリビア				
ボリビア共産党	1949	1,000	--	--
ブラジル				
ブラジル共産党（PCDB）	1962	250,000	1/81	12/513
ブラジル共産党（PCB）	1922	20,000	0/81	0/513
チリ				
チリ共産党	1921	45,172	0/43	8/155
コロンビア				
コロンビア共産党	1930	50,000	1/102	0/166
パラグアイ				
パラグアイ共産党	1928	3,500	0/125	--
ペルー				
ペルー共産党赤い祖国	1969	3,000	0/130	--
ウルグアイ				
ウルグアイ共産党	1920	18,000	1/99	1/30
ベネズエラ				
ベネズエラ共産党	1931	3,000	7/167	18/251

エクアドル 欠席				
エクアドル共産党 (PCDE)	1926	1,000	0/137	--
エクアドル共産党 (PCE)	1964	1,000	0/137	--

党員数は、各種資料から筆者推計

議席数は左側に獲得議席、右側に議席総数

これらの政党のほとんどは、かつてはソ連共産党から資金援助を受けており（アンドレイ・イーレシュ『K B G極秘文書は語る』瀧澤一郎訳（文藝春秋、1993年））、政治的立場もソ連に追随したものでしたが、1991年のソ連解体後、それぞれが自主的な立場を取るようになり、各国で一定の政治的・思想的影響力をもっています。

昨年2月、ティラーソン国務長官（当時）が、モンロー主義（ラテンアメリカの制覇）の復活を引き出したあと、4月より、トランプ政権は、優先課題としてキューバ、ベネズエラ、ニカラグア三国に照準を当て、それぞれの体制変換を図るべく、ペンス副大統領、ポンペオ国務長官が繰り返し、独裁体制で自由がないと批判を強めました。そして11月には、ボルトン大統領安全保障補佐官が、3国を「専制のトロイカ」と呼び、米国の要望が満たされるまで、外交関係を断絶するとまでのべました。経済面では、キューバには、1962年以来の経済封鎖の強化、ベネズエラには波動的な経済制裁の押し付け、ニカラグアには外国投資をさせないためのニカラグア投資条件法の厳格な実施を行い、経済面で三国を窒息させようとしています。

それでは、声明は、米国のこうした地域に対する政策の現状をどうみているのでしょうか。「米国は、経済的には、各国の主権を尊重せず、資源を強奪し、IMFや世銀の貿易・金融条件を押し付け、従属的グローバリゼーションを進めている。政治的・社会的には危険な後退が起きており、より侵略的な新自由主義が復活している。左派政権の誤りを利用して、アメリカ帝国主義、新植民地主義が各国の寡頭制支配勢力と結託して、反転攻勢に出ている。このことは、チリ、アルゼンチン、パラグアイに見られ、ブラジル、コロンビアでは極右政権が出現した。これらの政府は、リマ・グループに結集し、米州機構（OAS）を米国の植民地省の役割に変質させた。そして、連帯的な地域協力をめざした南米諸国連合（UNASUR）を解体し、ラテンアメリカ・カリブ海諸国共同体（CELAC）を麻痺させ、南米南部共同市場（MERCOSUR）の政治的側面を停滞させ、あらたに多国籍企業に奉仕する南米進歩同盟（PROSUR）の設立を提案している」と、地域機構の変質を指摘しています。

こうした現状分析から、声明は、キューバについては、「ラテンアメリカで社会主義を実践的に建設することを目指しているキューバ革命を全面的に支援する。犯罪的な経済封鎖及びヘルムズ＝バートン法第3章を適用して封鎖を強化することに反対する」と経済封鎖の強化を批判しています。

ベネズエラについては、「自らの主権の道を建設して闘っているベネズエラ国民とベネズエ

ラ政府を支持し、米国とその同盟国により科せられた金融封鎖、経済戦争、軍事干渉の脅迫に断固反対する。われわれの広範な連帯を具体的、明確な形で表明する道を探る。右翼により繰り返し行われているクーデターの企て、フアン・グアイドーの大統領自己宣言を全面的に批判する。ボリビア・メキシコ・ウルグアイ・カリコムによる無条件の対話推進の呼びかけ、モンデビデオ方式を支持する。これは危機を平和的に解決する道である」と、ベネズエラ政府との連帯を表明し、対話による危機の解決を強調しています。

ニカラグアについては、「サンディニスタ戦線政府が進めている対話の過程を支持し、アメリカ帝国主義により推し進められ、ニカラグアの右派により政治的意見の相違を表明するために行われている暴力行動を拒否する」と、対話による政治的解決を指摘しています。

声明は、最後に「戦いにおける複数主義を認めた上で、変革、拡大、愛国、反帝国主義、反新自由主義、民主主義、人民の政治的・社会的ブロックの結成」を呼びかけています。

キューバ、ベネズエラ、ニカラグア支援については、世界的に見ると、中国共産党、ベトナム共産党、ラオス人民革命党、ロシア共産党、インド共産党（マルクス主義）、フランス共産党、スペイン共産党、ポルトガル共産党、イタリア共産主義再建党、ギリシャ共産党、デンマーク共産党、ドイツ共産党、ハンガリー労働党、イギリス共産党、ベルギー共産党、ルクセンブルグ共産党、フィンランド共産党、アイルランド共産党、南アフリカ共産党、オーストラリア共産党、キューバ共産党、サンディニスタ民族解放戦線（FSLN）、ファラブンド・マルティ民族解放戦線（FMLN）なども同じ態度をとっています。

（2019年5月13日 新藤通弘）